

リサーチ・クリップ

2010/3/15 No.20

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

Eurosif 欧州企業における役員報酬への ESG パフォーマンスの反映についてまとめたレポートを作成 (1月27日)

欧州の SRI 業界団体である Eurosif は、EIRIS 社の調査結果をもとに、欧州企業における役員報酬への ESG パフォーマンスの反映についてまとめたレポート「Remuneration Theme Report - 3rd in a series」を発表した。

同レポートは、役員報酬制度へ ESG パフォーマンスを反映することについて、企業や政策立案者、責任投資家に向けて提案を行うことを目的に作成された。

構成は、「役員報酬が重要である理由」「繰り返されるテーマ」「主要関係者と反応」「役員報酬への ESG パフォーマンスの反映実態」「企業への影響」「株主、監督機関への提案」「結論」となっている。以下ではこのうち「役員報酬への ESG パフォーマンスの反映実態」の要約を述べる。

ESG パフォーマンスを役員報酬へ反映する方法は企業によってさまざまだが、同レポートでは先進的な企業として、次の 2 例を挙げている。1 例目は、オランダの化学企業である Akzo Nobel 社の例で、2009 年の年次総会において、監査役の条件付賞与の 50% を SRI インデックスである「Dow Jones Sustainability index」における自社の順位に連動させるという提案がなされた。2 例目は、イギリスの保険会社 Aviva 社の例で、役員賞与の 20% が顧客満足度や従業員の仕事に対する意欲によって決定されるというものである。

ESG 問題が、企業の長期的な財政安定性や価値創造と関連があることは、近年、株主や幅広いステイクホルダーに認められつつあり、企業の事業戦略に ESG 問題を組み入れることの重要性が増している。役員報酬へ ESG パフォーマンスを反映することはこの流れの一環である。

EIRIS 社の調査によれば、欧州の時価総額上位企業によるインデックス、「FTSE Eurofirst 300 index」構成銘柄のうち 29% の企業が、現在、何らかの形で ESG パフォーマンスを役員報酬に反映させている。石油ガス、化学、食品製造など、ESG リスクに強くさらされているセクターでは、半数以上の企業が、ESG リスクマネジ

メントの実績と役員報酬を結び付ける何らかのスキームを持っている。一方、金融セクター（銀行、金融一般、保険など）は、融資や投資、保険などによって、間接的な ESG リスクにさらされているにも関わらず、取組みが遅れている。ESG パフォーマンスを役員報酬に反映させている企業は、全体の 15%に過ぎないという。

前段で述べたような先進的な企業も一部存在するが、ESG パフォーマンスを役員報酬に反映させることを表明している企業であっても、多くの企業は ESG パフォーマンスをどのように役員報酬に反映させるかを明確にしていない。ESG パフォーマンスを評価する方法のあいまいさから、役員賞与の算出にあたって ESG 評価部分の査定が甘くなり、結果、賞与の固定支給部分化することが懸念されている。

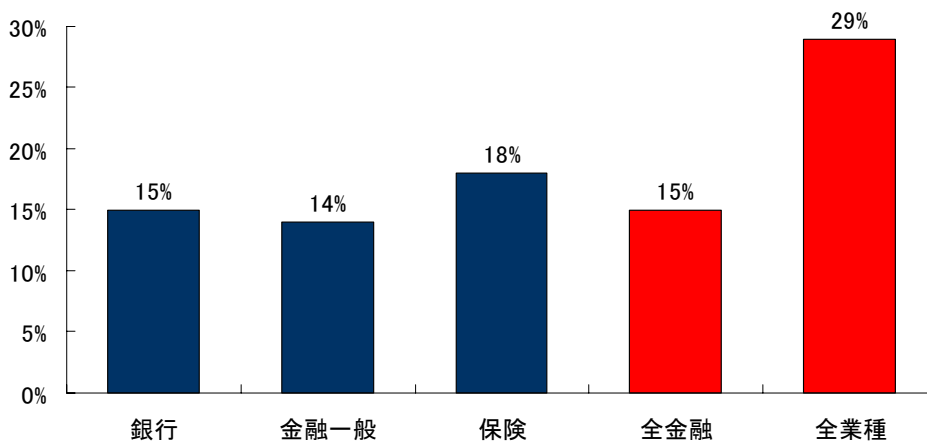
ESG パフォーマンスを役員報酬に反映させる場合の評価基準は、役員報酬に反映される他のものと同様に定量的で、評価時期が明確であり、検証可能で、同時に継続的に使用可能なものでなければならない。

業績に連動した他の全ての役員報酬の算出基準と同様に、株主が役員報酬と ESG パフォーマンスの関係を理解し、適切に意見を述べることができるよう、より詳細な情報の公開と、制度の透明性確保が求められている。

その他の内容については下記 Eurosis のホームページにて参照できる。

http://www.eurosis.org/media/files/remuneration_final_web

ESG パフォーマンスを役員報酬に反映させている企業の割合



出所：「Remuneration Theme Report - 3rd in a series」より NFI 作成

(社会システム研究所 CSR 調査室 曾我 昂平)